安房高等女学校木造校舎を愛する会

（旧安房南高校第一校舎・千葉県指定有形文化財）

会報 第８号

2023. 10. 29

【会員募集中】 年会費 1,000 円

ゆうちょ銀行 振替払込 00270-4-87431

名義：安房高等女学校木造校舎を愛する会

・　・　・

事務局：NPO 法人安房文化遺産フォーラム

〒294-0045　千葉県館山市北条 1721-1

TEL&FAX 0470-22-8271　E メール awabunka@awa.or.jp

千葉県指定有形文化財 旧第一校舎

2023

日時：令和５年 11月19日(日) 10:00～15:00

会場：旧千葉県立安房南高等学校　入場無料

主催：千葉県教育委員会・千葉県立安房高等学校

企画運営：NPO 法人安房文化遺産フォーラム　協力：安房高等女学校木造校舎を愛する会

活躍する卒業生が制作した絵画や同校制服姿の人形等の展示もお楽しみいただけます。

【注意事項】

＊靴を入れるビニール袋と上履をご持参ください。

＊車は南総文化ホール第１駐車場を利用できます。

＊メディア取材等で、テレビ・新聞・インターネット等に掲載される場合もありますのでご了承ください。

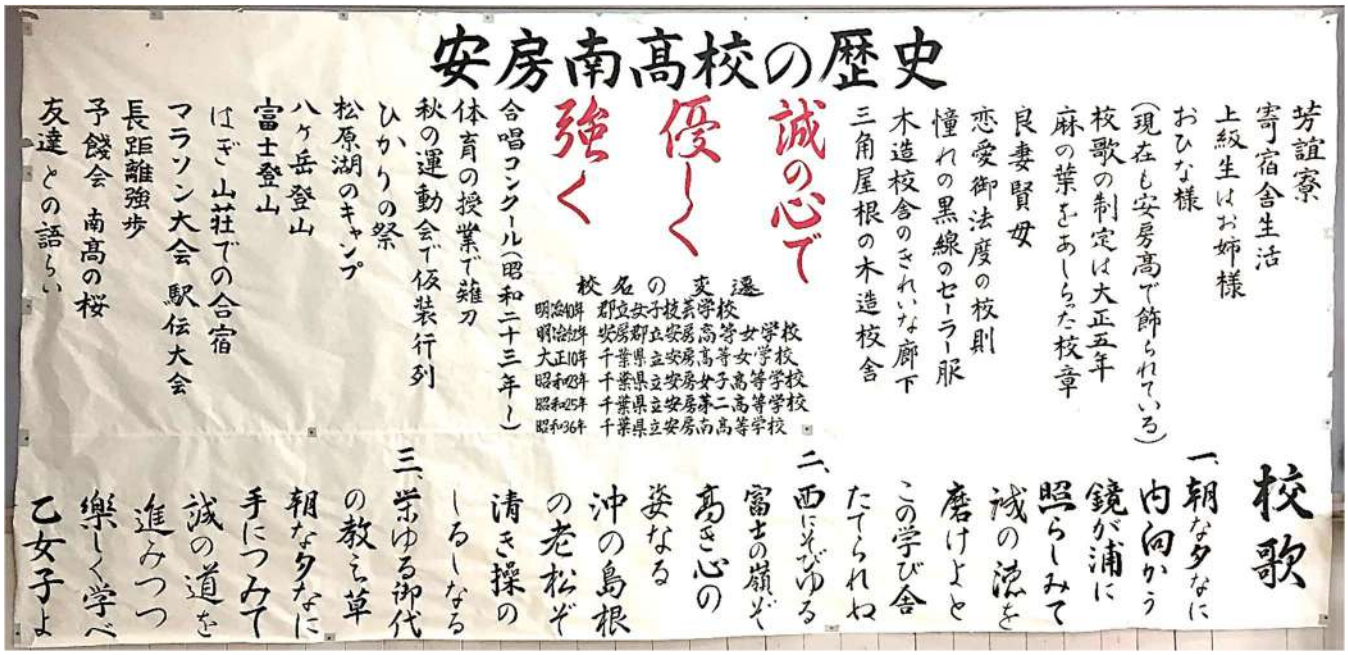
＊予約不要ですが、混雑による入場制限や、悪天候で見学中止の場合もあります。

＊お手伝いスタッフ募集＊

11 月 11 日（土）9:00～11:00　そうじ・見学会準備

11 月 19 日（日）9:00～16:00　見学会の受付・来訪者対応・巡視・消毒等

展示用に、珍しい思い出の品物や写真・文章などもお貸しくださる方も、連絡をお待ちしています。



房日新聞 2023.8.29付

満員の観客を魅了

世界的ピアニスト ブーニン氏がコンサート

館山

南総文化ホールで演奏するブーニン氏＝館山

世界的なピアニストのスタニスラフ・ブーニン氏のコンサート（館山音楽鑑賞協会、県文化振興財団主催）が27日、館山市の南総文化ホール大ホールであり、美しい音色が満員の観客を魅了した。

ブーニン氏は、19歳でショパン国際ピアノコンクールに優勝し、日本で〝ブーニン・フィーバー〟と呼ばれる社会現象を巻き起こすなど人気を博した。2013年から闘病のため演奏活動をいったん停止していたが、昨年6月に復帰。今年11月からは全国各地でのリサイタルツアーも予定している。

妻の中島ブーニン・榮子氏が、南房総市富浦地区、安房南高校出身という縁があり、今回の館山公演が実現。チケットは即日完売の人気ぶりだった。

ブーニン氏は、第1部で「ノクターン第5番」、「ポロネーズ第7番『幻想』」などショパンの曲を、第2部ではシューマンの「色とりどりの小品」を、榮子氏の通訳で曲の解説を交えながら演奏。

房日新聞　2023.9.1.付

世界的ピアニスト ブーニン氏にインタビュー

館山公演を終えて

「観客との一体感よかった」

館山公演（27日・南総文化ホール）を終えた、世界的ピアニストのスタニスラフ・ブーニン氏が28日、館山市内で妻・榮子氏とともにインタビューに応え、館山公演の感想や今後の活動などについて語った。

妻の榮子氏とともにインタビューに応じるブーニン氏＝館山

―館山公演をすることになったきっかけは

この秋に始める本格的な演奏活動に向け、少しずつ準備を整えたいという考えを相談した、義兄（榮子氏の兄）の発案。私は「無理じゃないか」と言ったが、義兄は「どうしてだよ。いいじゃないか」と支えてくれた。

南総文化ホールのホールの響きが良いことも後押しした。ホールに入って音響に正直驚いた。舞台に上がる途中の歩いている音でも響きの良さを感じた。日本各地のホールで演奏しているが、その中でも上のクラスだと感じた。

―館山公演の位置付け、印象は

響きの良いホール、温かい観客の前で、思い描いた演奏を試してみたかった。まだ「これだ」という表現ができず、私としては「満足でありうるはずがない」演奏となったが、（演奏終了後の盛大な拍手に）館山の観客の皆さんとの一体感を味わえたのはとてもよかった。客席の見知った顔も支えになったし、子どもたちも一生懸命聞いてくれたのが印象的だった。

―榮子氏との出会いは

1988年、日本の音楽大学の依頼を受けて、ドイツでジャーナリストとして活動していた妻が会いに来たのがきっかけ。日本でのレコーディングにも同行してくれ、そうして互いの理解を深めていく中で、信頼が重なっていった。

―ブーニン・フィーバーを振り返って

私の想像以上で驚いたが、あのフィーバーは皆さんとても真剣なものだったと理解している。食事や景色を見ることも楽しみの一つだが、音楽、それも自分のこの手でつくる音楽への渇望は皆さんとても真剣なものだったと理解しん以上。病気のために楽を失うなんて、とても耐えられない。好きな音楽の自然に力をもらえる。好きな南浦の景色もいいですね。

―9年間のブランクを経て復帰に至った原動力は

人は楽しみがなければ生きていけない。私はそうしたものを渇望していた。食事や景色

―今後の音楽活動について

まずは今秋のツアーを完璧にしたい。そのあとで自分の体調がどのような状態か見極めたい。約10年のブランクというのは本当に大変です。

―南房総のファンにメッセージを

南房総の皆さんには、私が一番必要としている時期に助けてもらった。きのうの公演でも観客の皆さんとのふれあいの中で、また助けられた。私も自分のできることを皆さんに与えたいという気持ちになった。ありがとうございました。

南房総には何度も訪れているが、どんな景色を見ても、何を食べてもいい、空気も含めて大好き。花畑や鏡ケ南房総の自然に力をもらっている。好きな南房総の食事はもちろん「魚」。お刺し身です。

【スタニスラフ・ブーニン氏】

1966年、旧ソ連時代のモスクワに生まれる。85年に世界で最も権威のある音楽コンクールの一つ、ショパン国際ピアノコンクールに19歳で優勝。日本で〝ブーニン・フィーバー〟と呼ばれる社会現象を巻き起こした。

2013年から闘病のため演奏活動を一旦停止していたが、昨年6月の長野県・八ケ岳でのリサイタルで復帰。今年11月からは全国各地でのリサイタルツアーを予定するなど演奏活動を本格化させている。

ドイツと日本に在住。妻でジャーナリストの榮子氏は、南房総市富浦地区出身で、安房南高校の卒業生。

興様は、安房南高校の第24回卒業生です！